

「東京の総合的な交通政策のあり方検討会」第1回発表資料

東京女子大学 竹内 健蔵

1. 2020年までにやることと2020年以降にやることの峻別

2020年の東京オリンピックは「大人のオリンピック」  
拙速には注意（50年前の首都高速道路整備の二の舞は避ける）  
空港問題は空域問題と不可分  
決まっていることは迅速に、決まっていないことは焦らずに

2. 自転車交通の拡大に関する注意

インフラ整備よりもまずマナー（インフラが無駄になることも）  
自転車交通拡大に伴う費用負担問題（自転車のフリーライダー化）

3. 海上交通の活用

東京の「水の都」は過去のこと？  
水上交通（河川、沿岸）をいかに活用するか

4. 「自動車＝環境に悪」の発想の長期的な転換

10～20年先ではなく、50～100年先も考えた道路整備  
自動車（エンジン）の技術革新の急速な進展  
→ 今の自動車のイメージで将来の交通を考えることの危険性  
ex. 地下道路の巨大な換気塔、電車も架線がなくなる？（都市の景観の問題にも関連）

5. ロードプライシングの導入への取り組み

東京都の過去の取り組みは意味がなかったのか  
「道路は無料」という幻想（世界では一般道路の有料化も加速）

6. 防災重視の影に隠れた治安

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」  
テロが起きれば、「治安重視の影に隠れた防災」となるのか  
防疫も含めたバランスのある危機管理

7. 貨物輸送との棲み分けの工夫

旅客輸送だけに注目しすぎていないか（物流も東京の重要な戦略・課題）  
景観の再生や居心地の良い都市のために旅客輸送と貨物輸送とを棲み分ける工夫  
ex. 40ft コンテナの道路輸送問題